

通り未知→通り美知 ~彩りある人生と、まちを創る画廊~

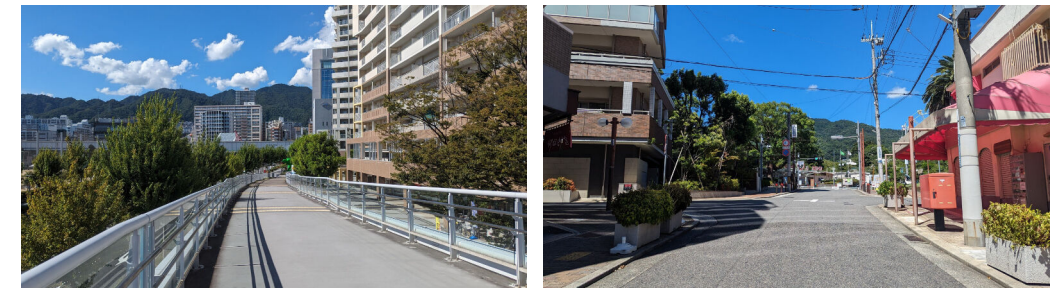
「明日はどんなアート活動が行われるのかな。」「来月はどんな服屋さんが来るのかな?」
 「僕も数年後あの場でパフォーマンスするのかな。」
 ここは未来に対する「未知」の出来事を楽しみにし、様々な他者と関わることで誰かの「美」を「知」ることができる未来のミュージアムロード。
 この道を歩く人が互いに刺激を与え合う、つまりこれからの互いの人生を彩る長い画廊の様な一帯が生まれる。

計画背景



王子動物園から兵庫県立美術館までの一本道である「ミュージアムロード」。
 1.2kmという短い道ではあるが、動物園・複数の美術館・公園・飲食店、様々なものが建ち並ぶことで変化に富んだ表情を訪れる人々に見せてくれる。
 その一方で、ミュージアムロード上に各美術館や屋外展示アートが点在しているのに、来訪者と目的が1対1で完結してしまうことから、周辺地域への集客や魅力発信の力が弱いという問題点がある。

特徴ある道だからこそできる計画

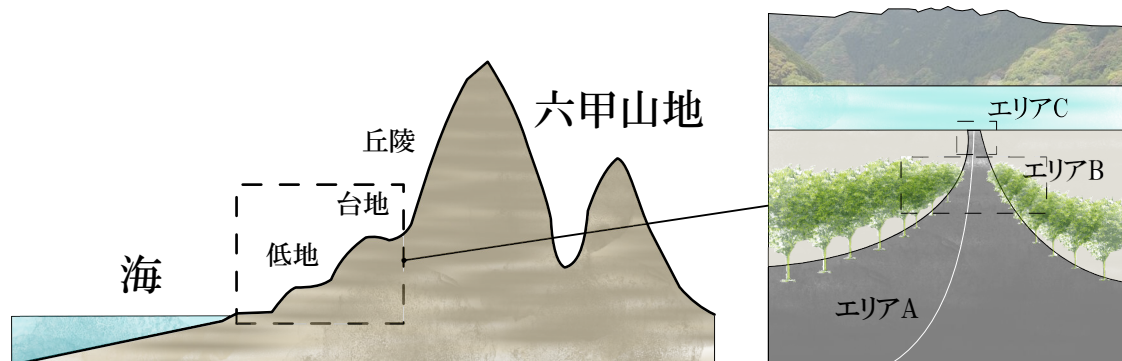


上記の問題がありながらも、1.2kmの道が山と海に挟まれ、変化が急という神戸・灘ならではの特徴に気づいた。
 よって、複数のテーマを持ったエリアを「ミュージアムロード」内に挿入することで、地元住民・来訪者ともに芸術・文化を楽しめる未来が生まれるのでは?と考えた。

Plan Concept

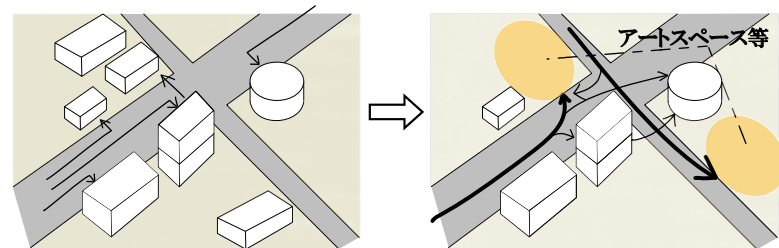
・灘の地形の様に変化に富んだ文化創造ロード ・モノ+人が創るまちづくり

テーマが段々変化する歩行空間を計画することで、「次は動物園側も行ってみよう」「少し奥まで散策してみようかな」と興味を持たせることを狙った。



山と海が近い神戸の特徴的な地形

今のミュージアムロードは人と屋外作品・施設が1対1の関係で完結しており、余程目的がないと他の場所まで巡らないのではないかと?そこで人のアクティビティを組み込み、日々違う賑わいを見せ、持続的に人を巻き込むシステムを作る。

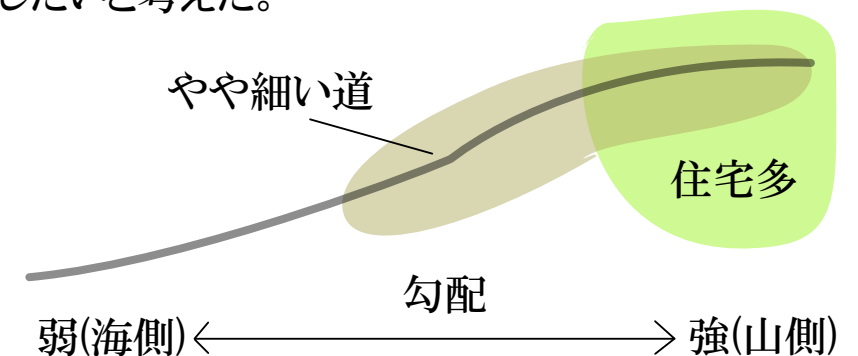


新築だけでは回遊性小

大規模工事ナシ・回遊性大

なるべく小さなチカラで整備する

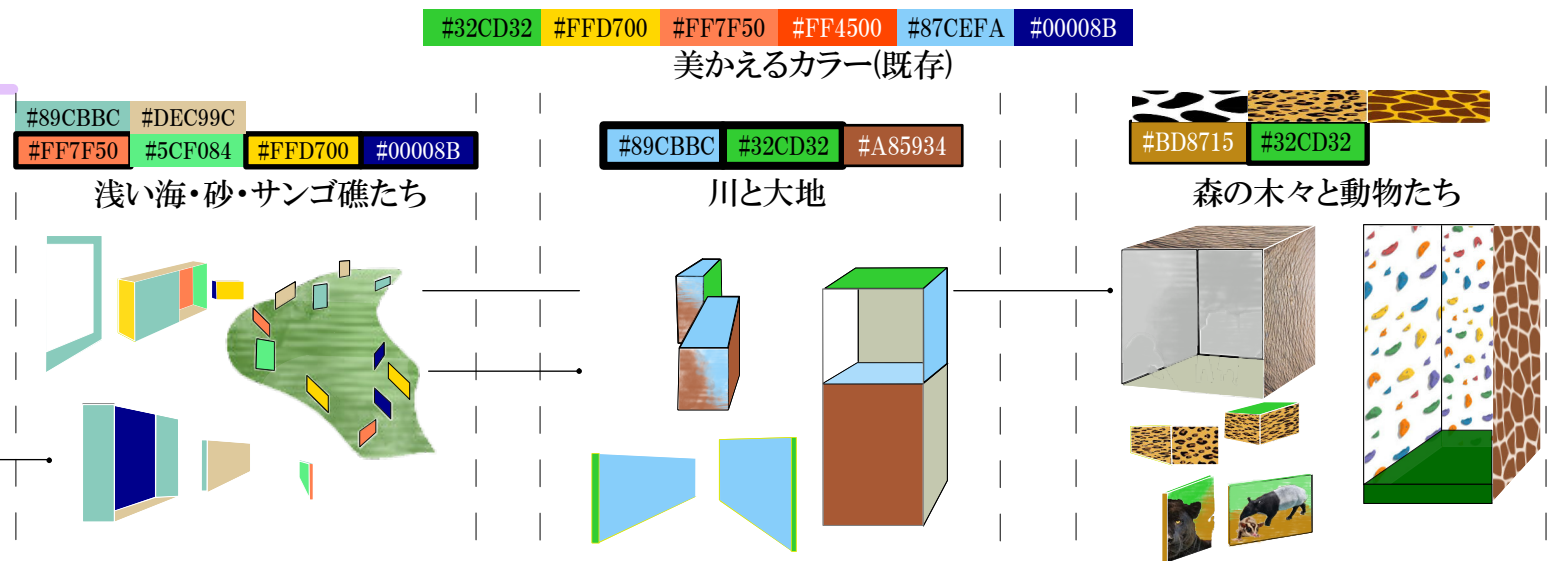
JR灘駅の北側と、岩屋駅までの道があまり広くないこと
 JR灘駅の北側は住宅が広がっていること、ミュージアムロード一帯の地理的特徴を尊重したい、といったことから大きな施設を作ったり大規模な土地改造をせずに「より魅力的なミュージアムロード」へ整備することを意識したいと考えた。



Layer3.各エリアで使う色を変える

ミュージアムロードには美かえるカラーというテーマ性を持った色が使われている。岩屋駅にも使われているこの色と、それに合う色を各エリアごとに振り分けることで既存のミュージアムロードの世界観を引き継ぎつつ新たな計画の風を吹き込む。

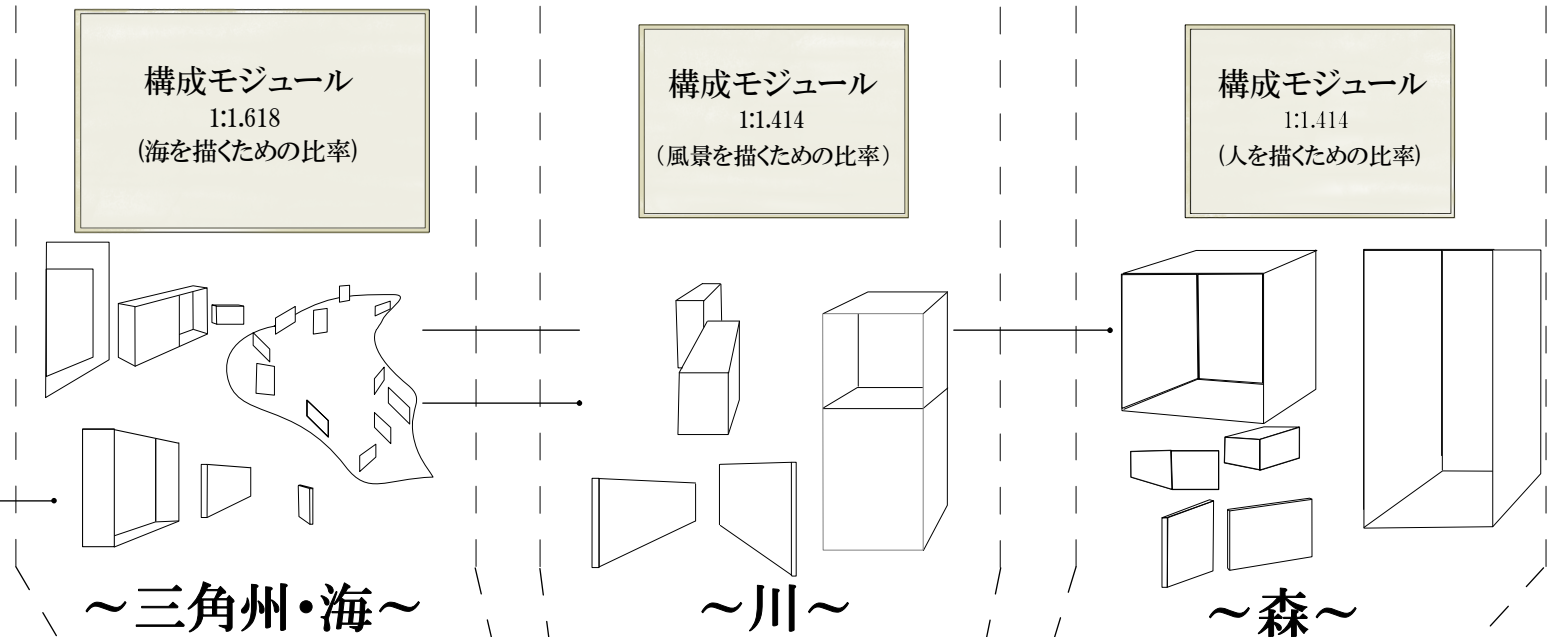
- 山:黄土色と緑に加え、王子動物園にいる動物の柄を使う。
これにより、駅から出てすぐ動物園の雰囲気を感じられる。
- 川:水色や緑、茶色を使う。
透明感のある水色が人の動線に作用する。
- 三角州・海:薄茶色(砂)・ターコイズブルー(浅い海)を用いる。
また、サンゴ礁を連想させるサーモンピンク・エメラルドグリーン・黄色・群青色を所々に用いる。



Layer2.ひととモノを鑑賞する回廊

Layer1で整備した道にキャンパスをモチーフにした箱状の空間を挿入する。これは人々のアクティビティや商業活動・作品展示などを行う場となり、ミュージアムロードに毎日違った活気をもたらす。作品を展示するだけだった現在から、人々自らの活動を作品とみなして都市計画に組み込み、人々のこれからの生活・興味・芸術性に刺激を与える。

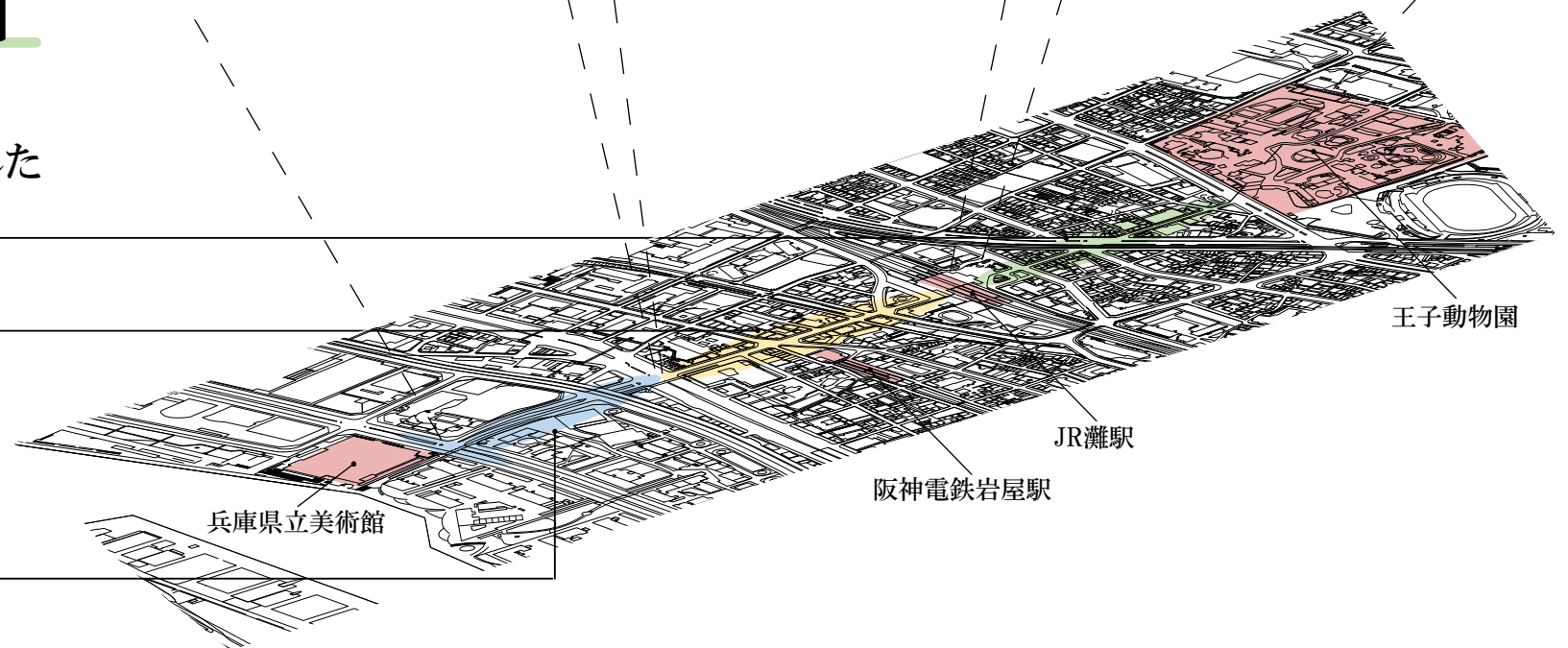
- 山:地域住民の習い事やラーニングスペースの場に。
通るだけでも動物園の存在を感じさせるため、様々な動物の大きさをもとにした空間を作る。
- 川:市民の美術作品を展示する場でもあり、飲食やアパレルなどのお店が非周期的にやってくる場に。
- 三角州・海:拡張整備した道路上でショーなどを行う。
美術館に近い領域や東西に走る車道の緑地帯には兵庫県立美術館の特別展示の予告などを行う。

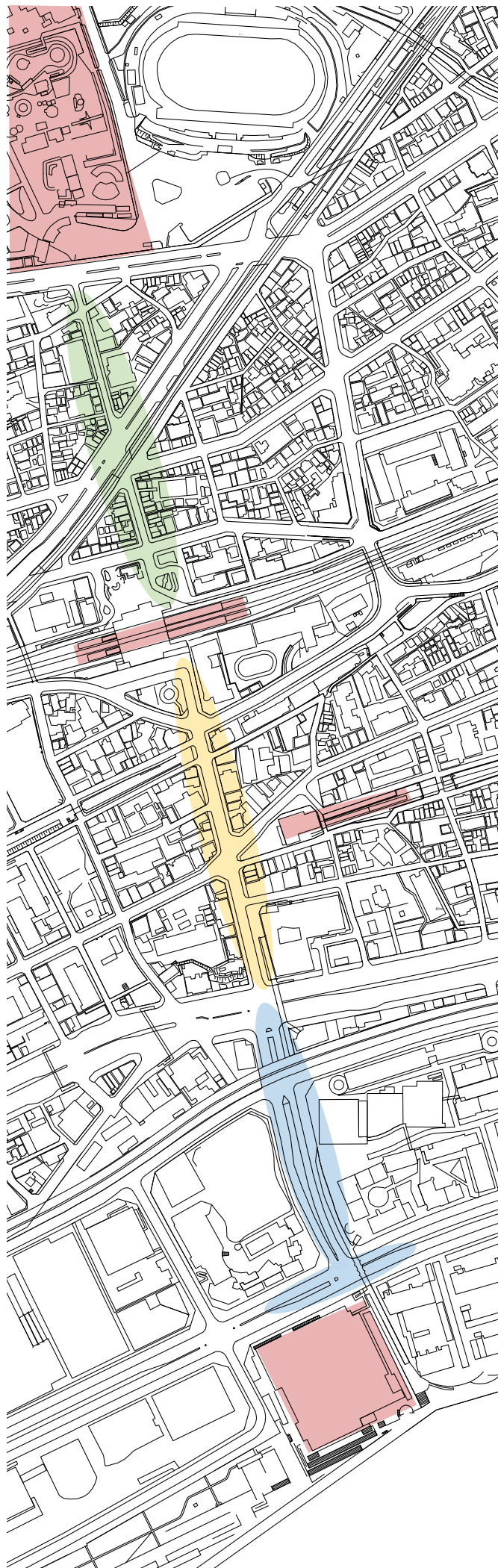


Layer1.灘の地形のように変化に富んだエリア計画

南北にまっすぐ延びたミュージアムロードのビュー。これを崩さず、かつ立ち退きや大きな道整備を行わないような計画をしたい。山と海が近く地形が急変化する神戸だからこそ、複数のテーマを持たせて分割したエリア(山、川、三角州・海)を計画する。

- 山:動物園・横尾忠則現代美術館のある駅北側が対象エリア。
ここは住宅街でもあり、動物園のエンタランスとなることから地域住民に寄り添った生活を豊かにする機能と動物園を身近に感じられるデザインが求められると考えた。
- 川:飲食店や商業店が多く建ち並ぶ駅南側を対象エリアとする。
駅北側同様に道があまり広くないことから、川の流れるように流動的な人の動線をつくりだし、周辺施設や屋外展示作品への接点を増やすことを目的とする。
- 三角州・海:兵庫県立美術館周辺を対象エリアとする。
川の流れて土砂が堆積した三角州のように、北側から来た人や車が停まり美術館のエリアを計画する。ここは兵庫県立美術館のエンタランスとして芸術や誰かの文化を感じられる場となり、車を走らせている人にもミュージアムロードとの関わりしるを提供する。





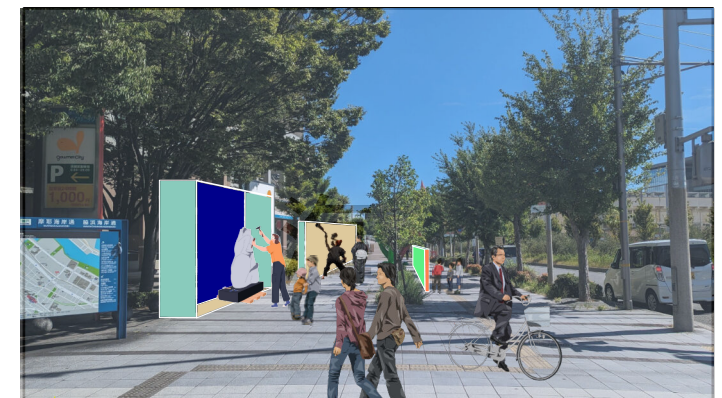
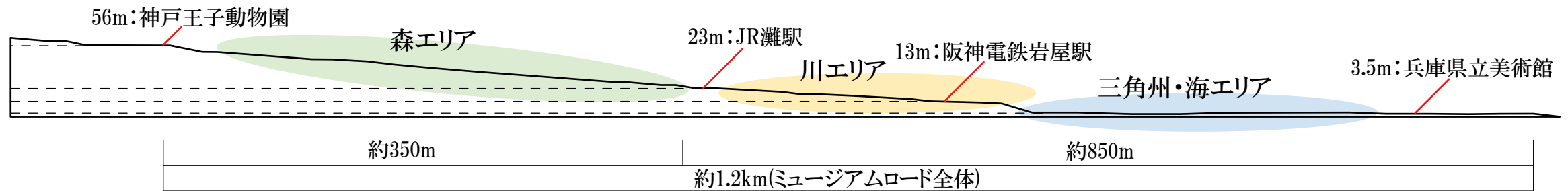
ヒョウの大きさがモチーフの卓球台があったり。キリンの大きさのクライミングジムを楽しむ。

AREA ～森～

駅の北側は森をテーマとした既存の美術館や動物園が存在する。住宅も多いため、森の様に静けさがありながらも動物園の魅力が伝えられるような場を計画した。



駅前ゾウぐらいの大きさの美容院があったり。



彫刻や書道のパフォーマンスが行われる日もある。

AREA ～三角州・海～

山・川エリア(北)からの人々が行きつく先であり、市民自身の芸術活動の場となる。例えばここでのアート活動や路上ライブ、美術館の非常設展示は海のように穏やかに受け止められ、新たな文化創造を起こる。



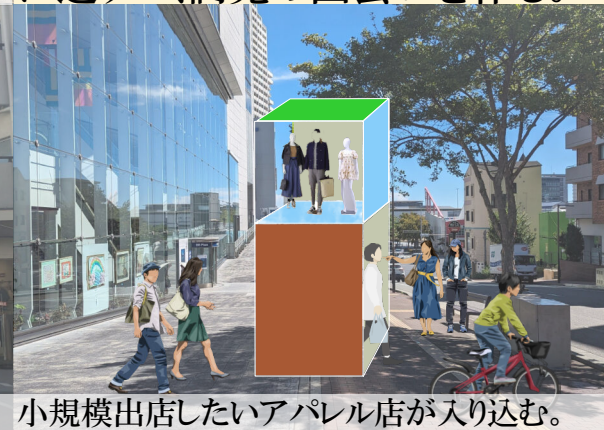
将来出店するお店の広告スペースにもなる。

AREA ～川～

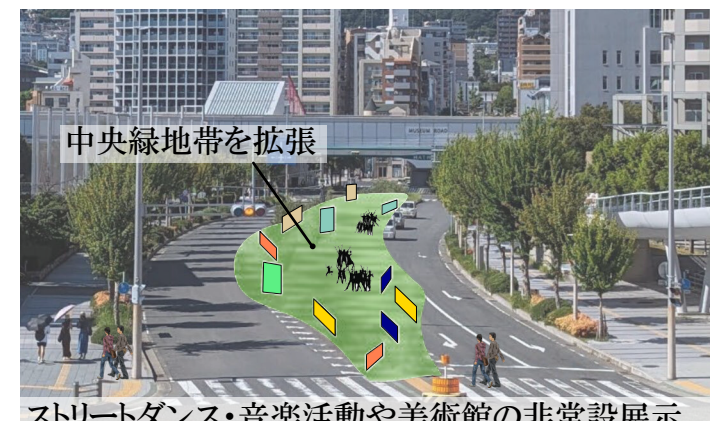
細い歩道ではあるが、飲食や服のお店、美術作品の展示がされる。これにより人々が川の流るの様にあちこちへ移動し、周辺のお店等に辿りつく偶発の出会いを作る。



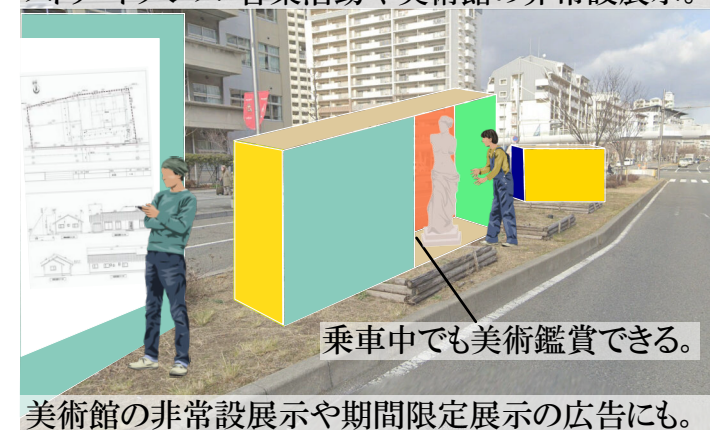
不定期開催で小さな飲食店が入り込む。



小規模出店したいアパレル店が入り込む。



中央緑地帯を拡張
ストリートダンス・音楽活動や美術館の非常設展示。



乗車中でも美術鑑賞できる。

美術館の非常設展示や期間限定展示の広告にも。